

第一章：多難な時を乗り越えるために 第二章：コロナ禍を乗り越えて 「過去その先に見えるものは」

一般社団法人日本スノースポーツ&リゾーツ協議会 副会長
公益社団法人日本プロスキー教師協会会長

中島 英臣



第一章 多難な時を乗り越えるために

コロナ収束と拡大

今シーズンはラニーニャ現象で雪の心配もなくシーズンインしましたが、反面雪が降りすぎ、毎日除雪に追われる日々を過ごされた方もいると思います。

シーズン開始当初はコロナも収束傾向でしたが、年明けと同時にオミクロン株が増え、修学旅行や各県の地元の小中高のスキー教室、宿泊をとまなうコースレッスン等のキャンセルが続出しました。

クリスマスから年末年始にかけては久々にスキー場に出かける方も増え、明るい兆しが見えました。しかし新年を迎え帰省や成人式、旅行等による移動が多くなることでコロナの急激な感染拡大に繋がりました。

昨年よりも各都道府県の感染者数が増え、国としてもまん延防止策を実施せざるをえない状況になりました。

期待していた「GoToトラベル」再開は先送りとなり「早くて2月以降の再開で調整」と報道があったものの、政府は感染が落ち着いた後の全国一斉再開を前提とし、まん延防止等重点措置が適用されたことから、大幅に遅れております。

このような多難な時こそ、観光業を生業としている方々を含めSAJ・SIA・スノースポーツ業界が一丸となり、結束して対策を練る必要があります。

そのため今後は、昨年同様「日本スノースポーツ&リゾーツ協議会」から国の方に働きかけていくつもりです。

また、令和になり多数の方々が永遠の旅立ちをなされました。今年お亡くなりになられた高鳥修先生、若林省三先生、土岐良次先生は公益社団法人日本プロスキー教師協会の礎となり、設立当初から多大な貢献をしていただいた方々です。

私自身若い頃や理事になってからも一緒に一献傾け、様々な経験による助言や生き方に関してお教えいただきました。昭和から平成、そして令和と年号が変わり、一時代を築いた方々がお亡くなりになり、改めて新しい時代の流れを感じる今日この頃です。

時代と共に人の「考え方」「接し方」「伝え方」も変わってきました。我々にとっては古いと感じるものが平成生まれにとっては新しい感覚になるのだから面白いものです。

最後に

今、世界中でコロナが昨年より増えてきています。人材交流も途絶え、経済も停滞していますが、景気のいい企業もあります。苦難の時代でも、やり方によって企業として成り立ちます。我々もそうありたいものです。このような多難な時でも決して後ろ向きに物事を考えるのではなく、後退させることなく前向きにとらえ、コロナ対策もしっかり行っているので「安心安全」なのだという組織にすることが大切です。この多難な時代を乗り切るには皆さんの協力が必要です。一丸となり乗り切っていきましょう。

生活の変化による 心の健康

コロナ禍により世の中が大きく変わってしまいました。
スノースポーツを生業にしている我々にも様々な課題や生き方、
過ごし方の変化が否応なしに突きつけられています。
ただ安穩と過ごすわけにはいきませんが「感染恐怖」「日常の
行動制限」「外出自粛」「経済的不安」など、我々を取り囲む
環境が大きく変化し、些細な出来事がストレスの原因となり、
「心の健康」をどのように保つか日々悩まされます。
アメリカの大学の研究によると、人は自然豊かな環境で短時間
過ごすだけでも、より幸せを感じ肉体的および精神的ストレスの
影響を軽減できるということがデータとして立証されています。
皆さんもストレスがたまりがちだと思います。自然界へ飛び出し、
青い空と鮮やかな緑の中でおいしい空気を吸いながらスポーツ
をしたり、キャンプや登山、釣りなどのアウトドアを楽しむ
ことで気持ちをリフレッシュし「心の健康」を保ちましょう。

さて、公益社団法人日本プロスキー教師協会は、昨シーズンは
悩みに悩んで志賀高原に於いてアルペンスキーデモンスト
レーター選考会を実施しました。コロナ禍の中で開催することに
ついて、執行部では議論に議論を重ね最終的に開催の決断を
しました。一番の懸念は参加者数でしたが、予想より参加者が
多く安心しました。今年のアペンスキーデモンストレーター
選考会は、種目も変え、認定基準を厳しくし、さらに少数精鋭を
目指しより厳しくすることで参加者の意識開拓とレベルアップを
図りました。

ただコロナ禍で他県に出ることが許されない環境にあり、止む
無くデモンストレーター選考会を見送った方々が多数いたことを
理解しなければいけません。その様な中でデモンストレーター
に認定された方々は「デモとは何か」「デモは何をするのか」
「デモはどうあるべきか」を、自らが考え行動することを願って
おります。

デモンストレーター 選考会

コロナ禍での 課題と対応

公益社団法人日本プロスキー教師協会執行部は来期の事業計画を立てている最中です。コロナ禍により事務局に理事や各部役員が集結することが出来ないため、リモート会議を頻繁に行い、前期の計画が思うようにいかなかった反省や課題を見直して事業計画を作成しています。

私はSIAニュースVOL183号で「ピンチをチャンスに」という事で「電子決済」「リモートワーク・テレワーク」「AIによる監視」「ネットの物品購入」と社会状況が変化している今こそ無駄を省き「新たな生活様式の変化」に素早く対応することが更なる発展に繋がると書きました。

執行部はその「ピンチをチャンスに」を念頭に徹底して無駄を省き予算計画を立てております。しかし、無駄を省くだけでは進展しません。今こそ理念に沿って行動する時期だと思っています。我々は常に自分を高めていく努力をするべきです。また、資格取得もそうです。かつては資格取得のために躍起になって努力したものです。日本の資格だけではなく海外の資格を取得したり、積極的に海外に出かけたりしてレベルアップの勉強に勤しんだ仲間が多数いました。その先人の方々の努力で今があります。

自分を高める努力

最後に

コロナ禍の中でも、人々が「心の健康」に役立つことが、たくさんあります。願わくばもう一度初心に戻り、自問自答して「今何をすべきか」考えて欲しいと思います。そして、一日でも少しでも早くワクチン接種が進み、コロナが収束することを願っております。

中島 英臣 / Nakajima Hidetomi

1982年に大鰐スキースクールを開校。

映画、テレビ、スキー雑誌のモデルや技術解説を行う。

SIAデモンストレーター連続12期認定。ISIA国際スキー教師連盟会員。

公益社団法人日本山岳ガイド協会認定山岳ガイド。

大鰐町議会議員。

2016年に公益社団法人日本プロスキー教師協会会長に就任。

1979年	インタースキー	蔵王大会	デモンストレーター
1987年	インタースキー	カナダ・バンフ大会	デモンストレーター
2007年	インタースキー	韓国・ピョンチャン大会	監督
2011年	インタースキー	オーストリア・サンアントン大会	コーチ
2015年	インタースキー	アルゼンチン・ウシュアイア大会	副監督
2019年	インタースキー	ブルガリア・パンポロボ大会	団長